現地公開用資料

平成30年11月4日

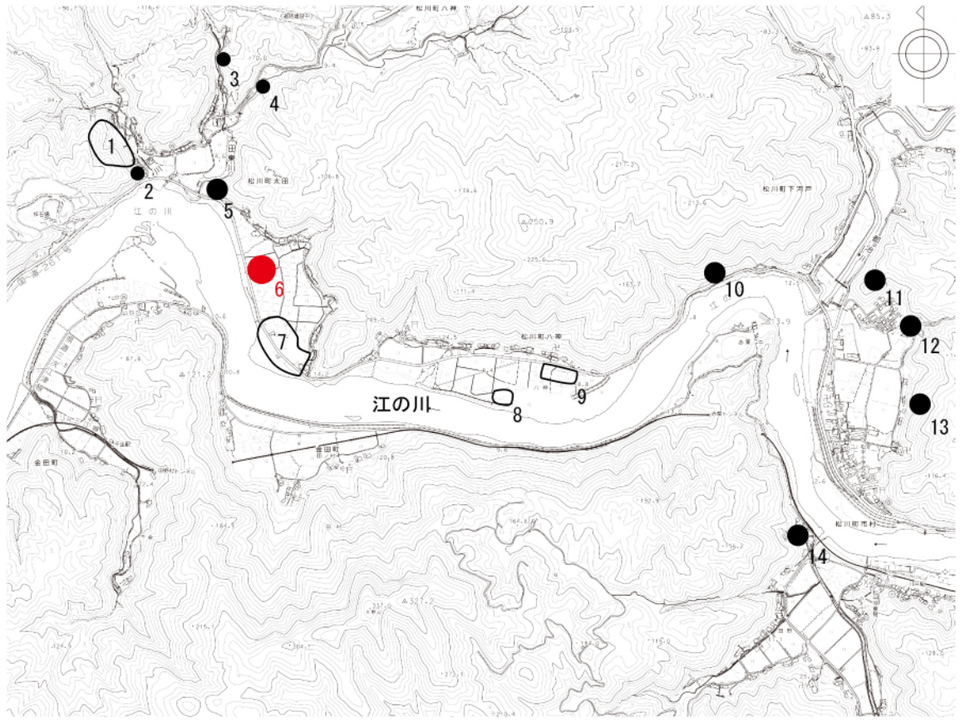
森原神田川(もりはらじんでがわ)遺跡の調査

島根県埋蔵文化財調査センター
江の川発掘調査事務所
TEL:０８５５－５２－７０１４

〇所在地：江津市松川町八神
〇事業名：江の川直轄河川改修事業（委託者：国土交通省）
〇調査面積：約２，０００㎡
〇調査期間：５月～１１月

〇調査の状況
- 中世～近世の流路跡を５本（SR1～５）を発見
  中世の河川（SR３）が埋没後、SR２やSR４が新たに自然流路として機能
- 自然流路は江の川に向かって流れており、山間から流れる河川（SR１）や周辺の耕作地へ導水する流路として機能した可能性
- 自然流路が機能する以前に堆積した包含層から古墳時代後期を中心とした遺物が出土
- 包含層が堆積する範囲も旧河川であり、昔の江の川の川岸を検出した可能性

〇遺跡の評価
　松川町八神周辺では弥生時代以降、継続的に人々の活動が確認されています。隣接する森原上ノ原遺跡は江津市教育委員会による発掘調査で弥生時代中期（約2,000年前）以降の活動が判明しています。特に、古墳時代には須恵器や土師器を使用したマツリ（祭祀）が行われています。江の川を利用した河川交通の中継地として機能し、周辺地域の中心地であったことが指摘されています。森原神田川遺跡の今回の調査では15～17世紀に機能した流路跡が確認できました。これらの流路跡には石積して堰(せき)を造り水量を調節していた様子も見られ、水田などに山間から流れる水を導水する機能をもつものもあるようです。また、包含層から出土した遺物のなかにはミニチュア土器や移動式竈(かまど)、甑(こしき)、高坏(たかつき)が含まれており、周辺で飲食をともにするマツリが行われていた可能性があります。今回の調査により、この地域が交通の要衝として重要な地域であったことがより明確になったといえます。

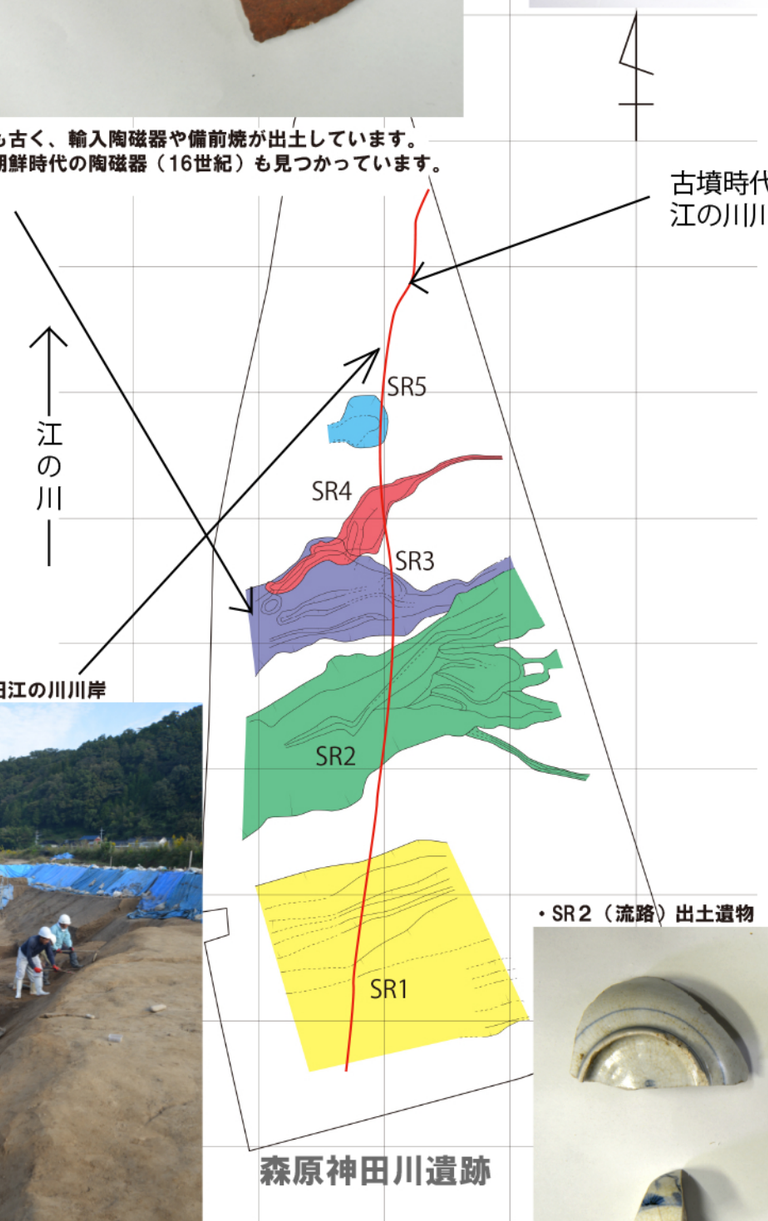


周辺主要遺跡分布図　　S=1/25,000
１．花田窯跡　２．本田窯跡　３．田中窯跡　４．こうの屋窯跡　５．千本崎城跡　６．森原神田川遺跡
７．森原上ノ原遺跡　８．八神上ノ原Ⅱ遺跡　９．八神上ノ原遺跡　10．値谷鈩跡 11．堂ヶバナ遺跡
12．川上館跡 13．松山城跡 14．恵口鈩跡

・SR２（流路）出土遺物

・検出した流路跡の中で最も古く、輸入陶磁器や備前焼が出土しています。
輸入陶磁器は青磁や李氏朝鮮時代の陶磁器（16世紀）も見つかっています。

・包含層などから出土した遺物



・包含層を掘削し露出させた旧江の川川岸

・SR２（流路）出土遺物

・16世紀末から17世紀の輸入陶磁器や伊万里焼が出土しました。
SR２では17世紀の陶磁器が最も新しく、おそくとも17世紀末には流路としての機能を失っていると考えられます。